

（鯖街道熊川宿 説明看板：まがり）

まがり（道路にある曲がり角）

熊川宿の住人は、^{しもんちよ}下ノ町地域と^{なかんちよ}中ノ町地域との道路上にある L 字型の曲がり角を「まがり（曲がり角）」と呼んでいます。このまがりは、15 世紀から 16 世紀にかけて山城がこの町を見下ろしていた頃の、軍事的な防御の名残とされています。柵形（文字通り「箱型」と呼ばれる同様の構造は、侵入者を減速させ、彼らの視線を遮り、簡単に前進するのを防ぐために、全国の城下町で使用されました。防御のためだけでなく、比較的平和だった江戸時代（1603 年～1867 年）の間、このまがりは、公式的な標識で地域の法律と命令を公表するための公共的なスペースとしても機能しました。

他の地域では、柵形はよく町の入口に造られましたが、熊川宿のまがりは、より中心的な場所にあります。熊川宿の西側は比較的新しいため、町は当初の町割りからその方向に拡大したであろうと考えられており、まがりはかつて西の端にあったとも考えられています。